

第4章

市民の健康の現状と課題

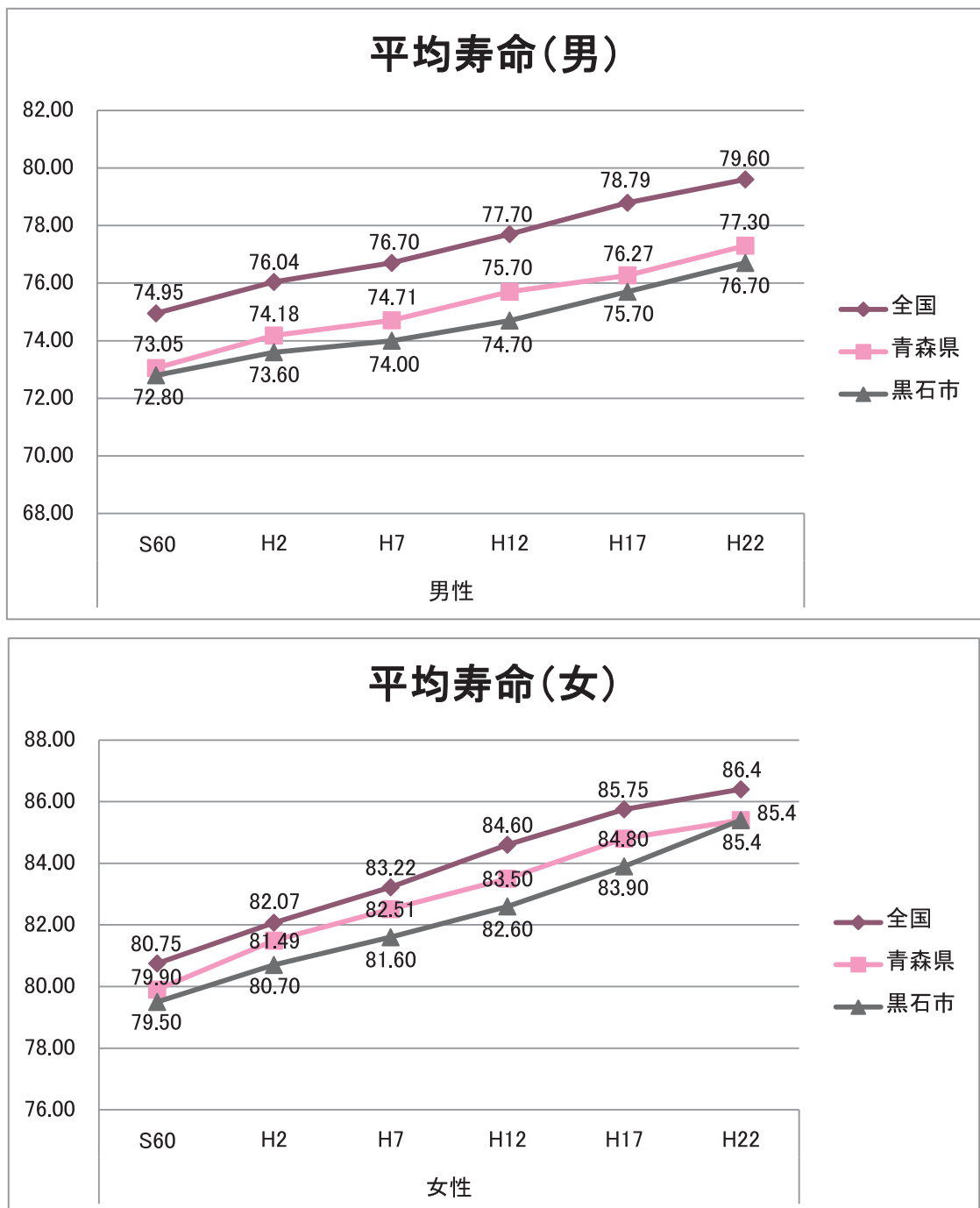
- 1 平均寿命
- 2 健康寿命
- 3 主要死因
 - (1) 三大死因
 - (2) 糖尿病
 - (3) 自殺
 - (4) 年齢別死亡状況
- 4 健診（検診）等の実施状況
 - (1) 受診状況
 - (2) メタボリックシンドロームの該当者等
 - (3) 血圧
 - (4) 認知症
 - (5) 糖尿病
- 5 市民の生活習慣
 - (1) 栄養・食生活
 - (2) 身体活動・運動
 - (3) 飲酒
 - (4) 喫煙
 - (5) 歯・口腔の健康
 - (6) 休養（睡眠）

第4章 市民の健康の現状と課題

1 平均寿命

黒石市の平均寿命は、平成22年の市区町村別生命表によると男性は76.7歳、女性は85.4歳となっています。平均寿命は年々延びており、女性は県平均と同年齢ですが、男性は県平均を下回っています。青森県の平均寿命は男女とも全国最下位となっており、全国と格差が依然としてあることが課題となっています。

図1 平均寿命の推移



資料 市区町村別生命表

2 健康寿命

健康寿命は健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されており、平成24年度厚生労働科学研究費補助金による「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班が算定した本県の健康寿命は、男性68.95歳、女性73.34歳となっています。今後の健康づくりの取り組みにおいては、平均寿命の延伸とともに、平均寿命との差の縮小も重要な視点の一つであり、その推移をみていくこととしています。

表1 健康寿命

	青森県	(参考) 全国
男性(平均寿命との差)	68.95 (7.32)	70.42 (8.37)
女性(平均寿命との差)	73.34 (11.46)	73.62 (12.13)

資料：平成24年度厚生労働科学研究費補助金

「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班」

3 主要死因

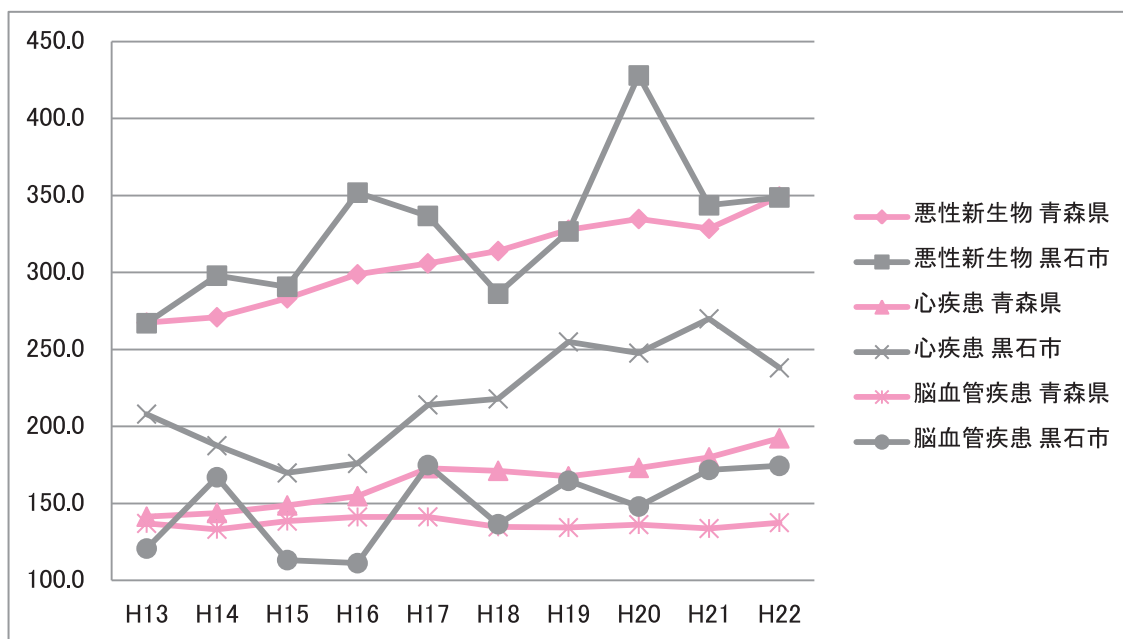
(1) 三大死因

疾病別死因順位は昭和62年以降第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位が脳血管疾患となっており、3大死因の死亡率は、いずれも県平均より高い割合で推移しています。

心疾患や脳血管疾患は、高血圧や糖尿病などが要因で引き起こされることが多く、予防のための生活習慣の改善や発症後の適切な治療の継続などを適切に実行していくための基礎となる市民の健康教養を向上させることが重要です。

図2 三大死因死亡率の経年変化(青森県・黒石市)

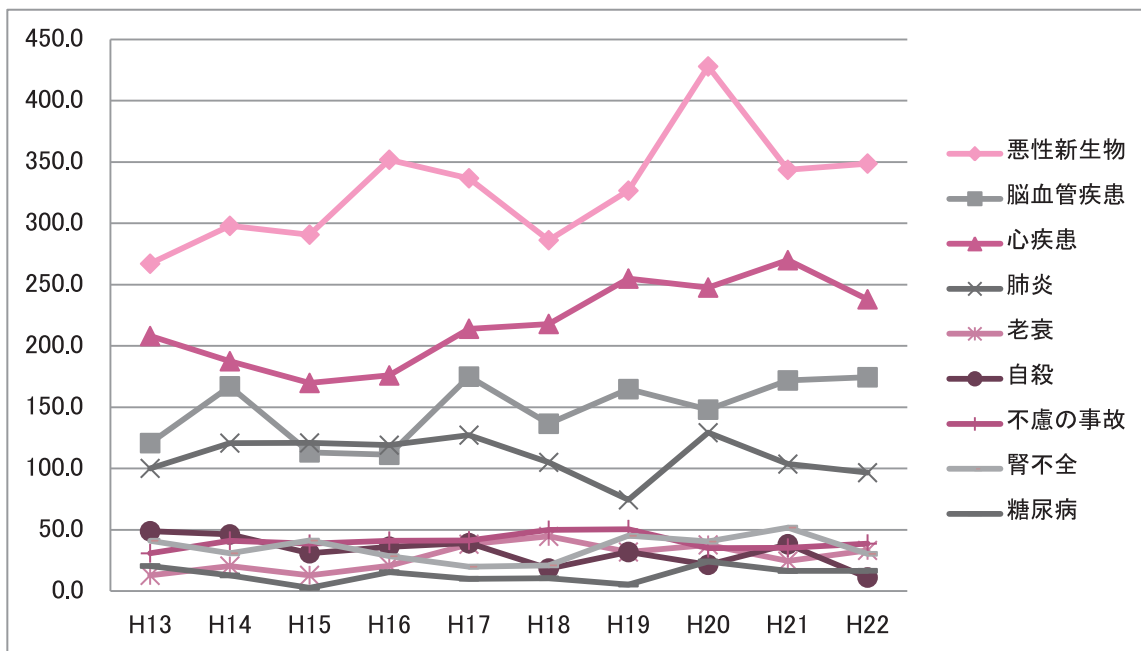
(人口10万対)



資料：青森県保健統計

図3 主要死因死亡率の経年変化（黒石市）

（人口10万対）



資料：青森県保健統計

① がん

がんの部位別死亡数では平成20年、21年で一番多いのは「胃」ですが、平成22年は「肺及び気管支」が一番で次に「結腸」「膵臓」の順になっています。

表2 悪性新生物（がん）部位別死亡（黒石市）

（人）

	H20年	H21年	H22年
肺及び気管支	24	22	24
結腸	21	17	18
膵臓	7	7	15
肝・胆管	22	15	13
胃	25	25	12
直腸	6	4	9
胆嚢・胆道	8	3	6
乳房	7	5	2
子宮	4	2	2
食道	3	5	2
白血病	0	2	1
その他	32	19	22
計	159	126	126

その他のがんには、前立腺、骨髄、悪性リンパ腫、腎臓、膀胱、甲状腺、卵巣がん等が含まれる。

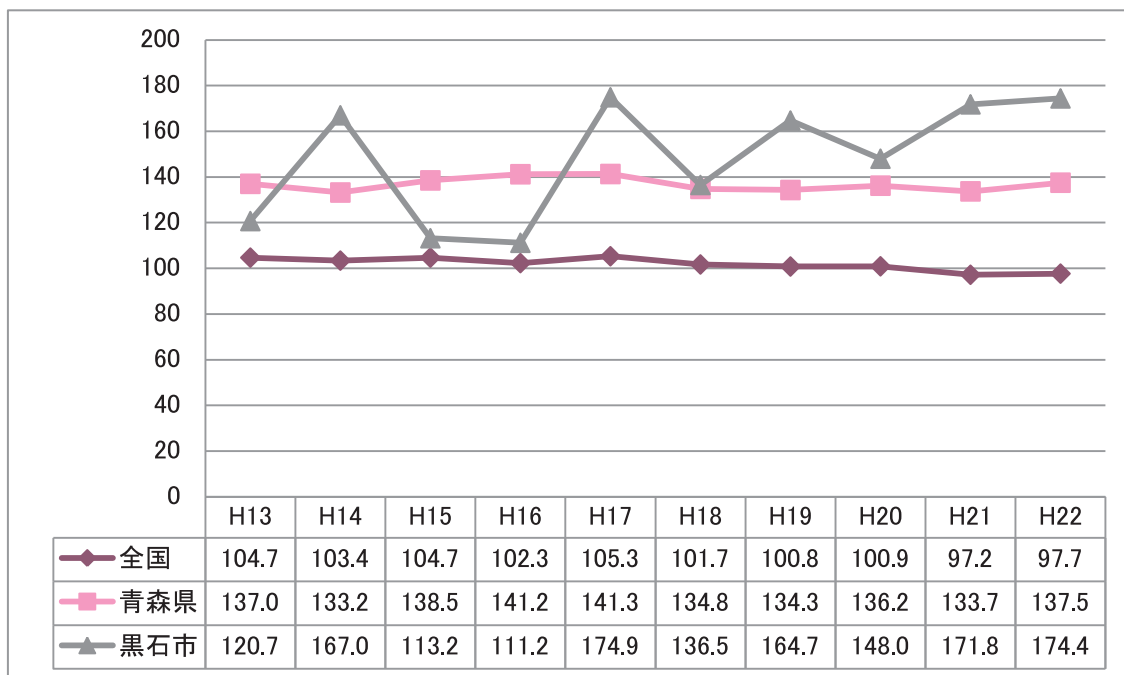
資料：青森県保健統計

② 循環器疾患

脳血管疾患と心疾患を含む循環器疾患の死亡状況は増減を繰り返していますが、国・県に比べるとまだまだ高い状況が続いています。

図4 脳血管疾患死亡率の経年変化

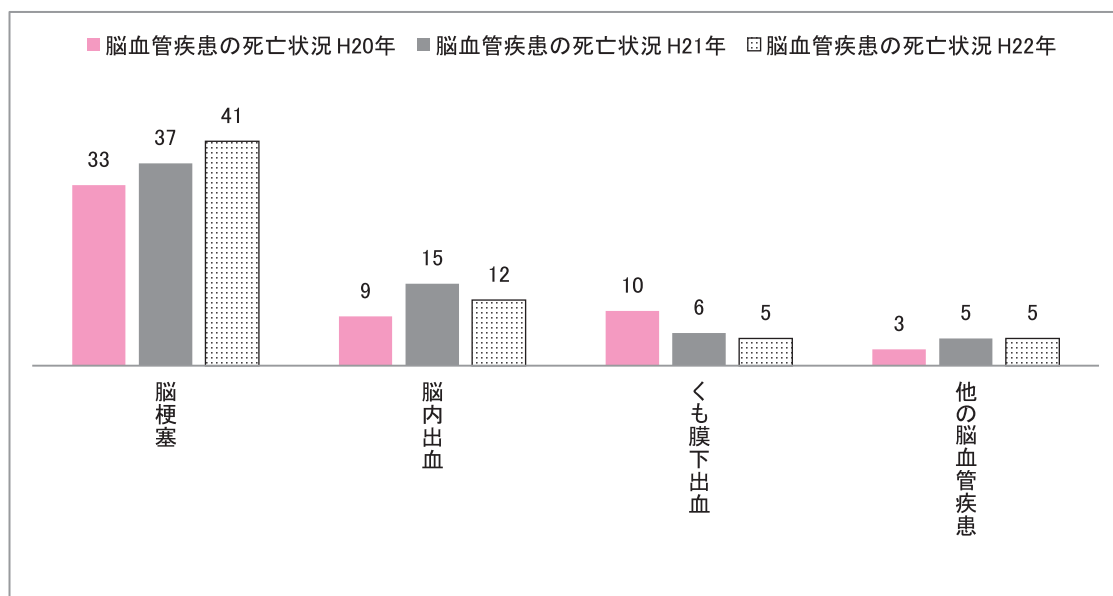
(人口10万対)



資料: 青森県保健統計

図5 脳血管疾患死亡の種別

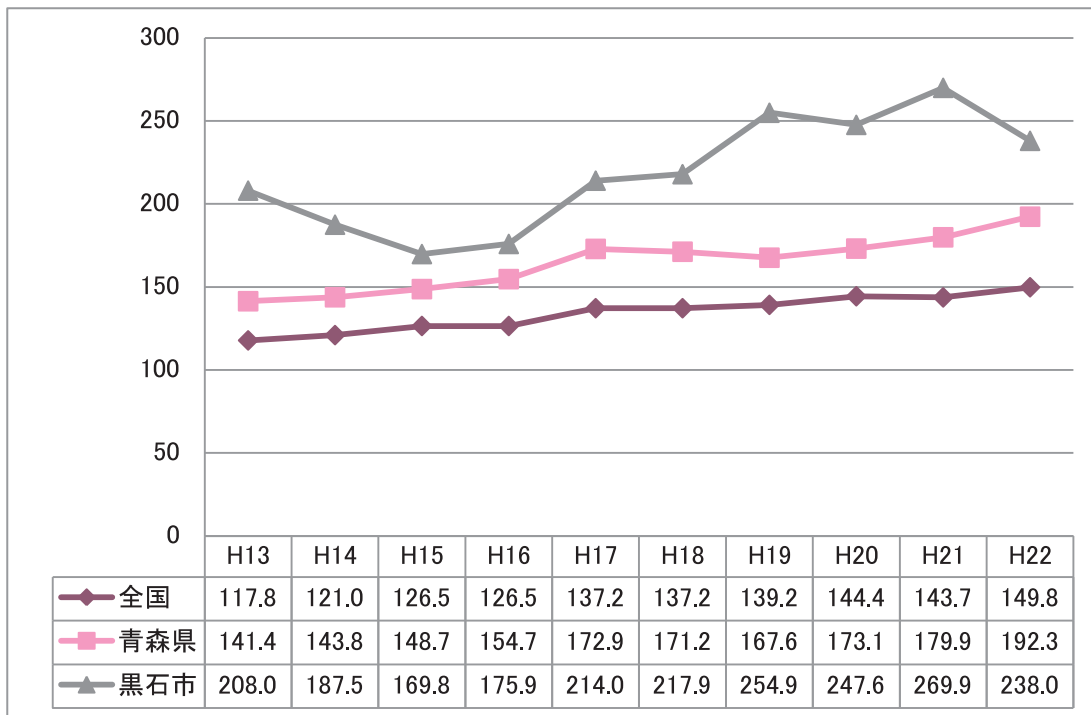
(人)



資料: 青森県保健統計

図6 心疾患死亡率の経年変化

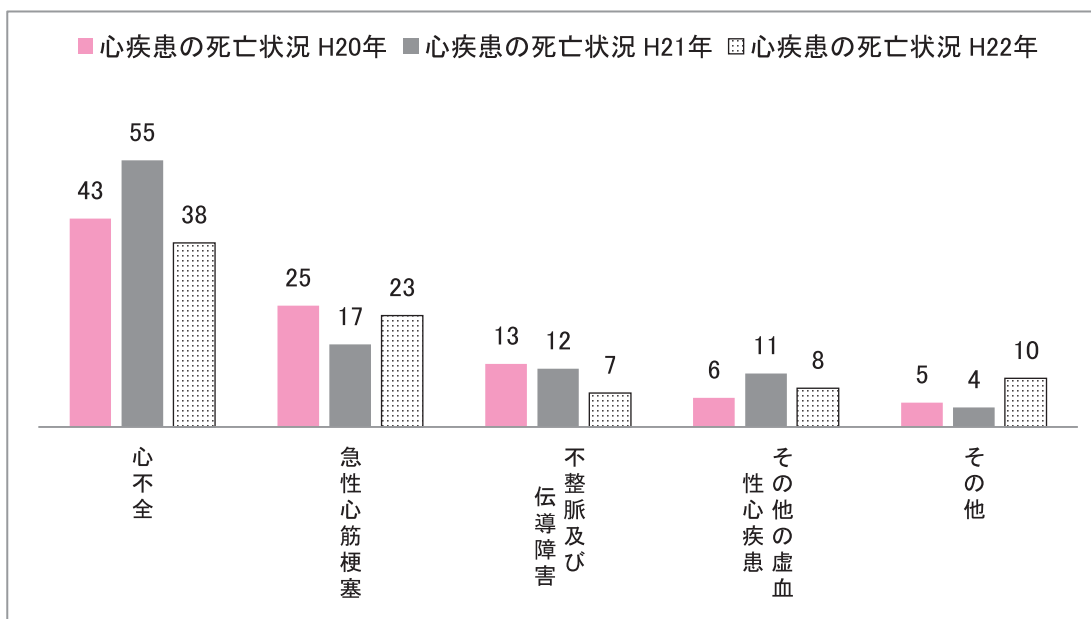
(人口10万対)



資料: 青森県保健統計

図7 心疾患死亡の種別

(人)



資料: 青森県保健統計

(2) 糖尿病

糖尿病の死亡率は、平成16年から減少傾向であったが、平成20年から国・県より高率です。

図8 糖尿病死亡率の経年変化

(人口10万対)



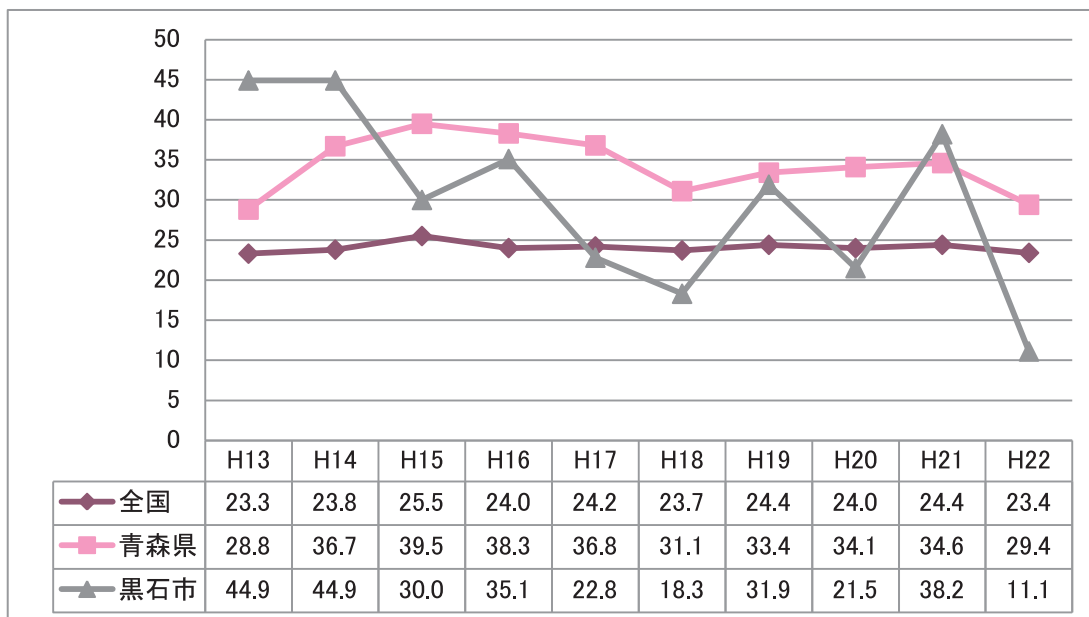
資料：青森県保健統計

(3) 自殺

自殺の死亡率は平成15年以降増減を繰り返しているが、平成22年は県より下回っています。

図9 自殺死亡率の年次推移

(人口10万対)



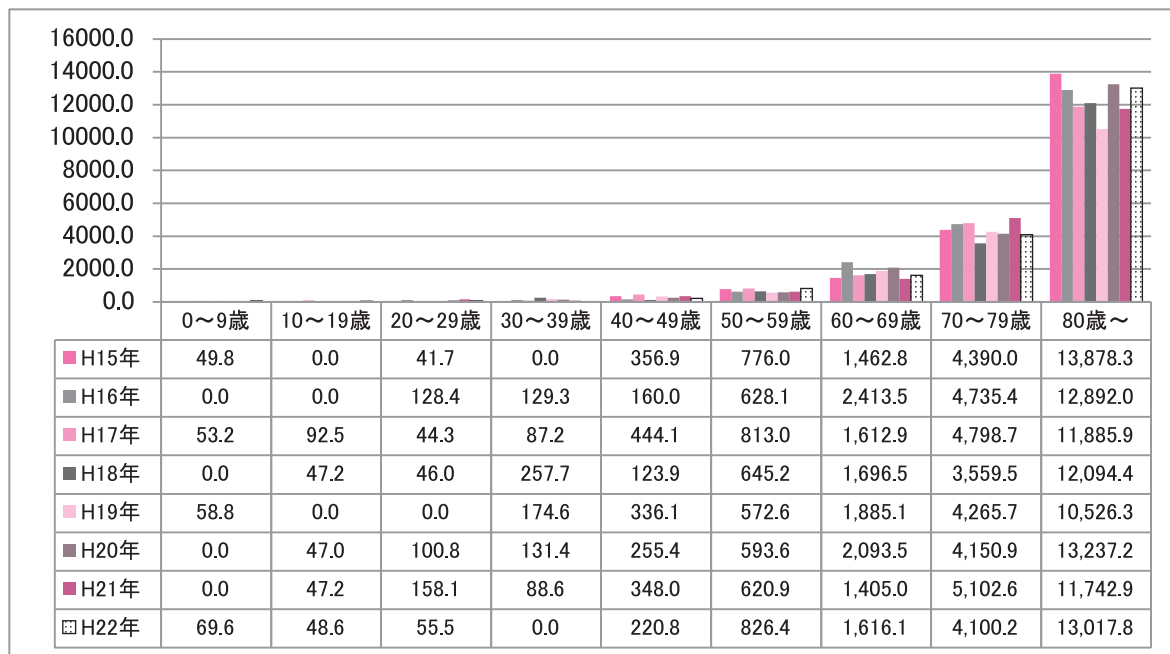
資料：青森県保健統計

(4) 年齢別死亡状況

平成15年から22年までの年齢階級別の死亡状況をみると、男性は40歳代から徐々に死亡率が高くなり、女性50歳代から増加している。また、どの年代も横ばい状況です。

図10 年齢階級別（10歳階級）死亡率（男性）

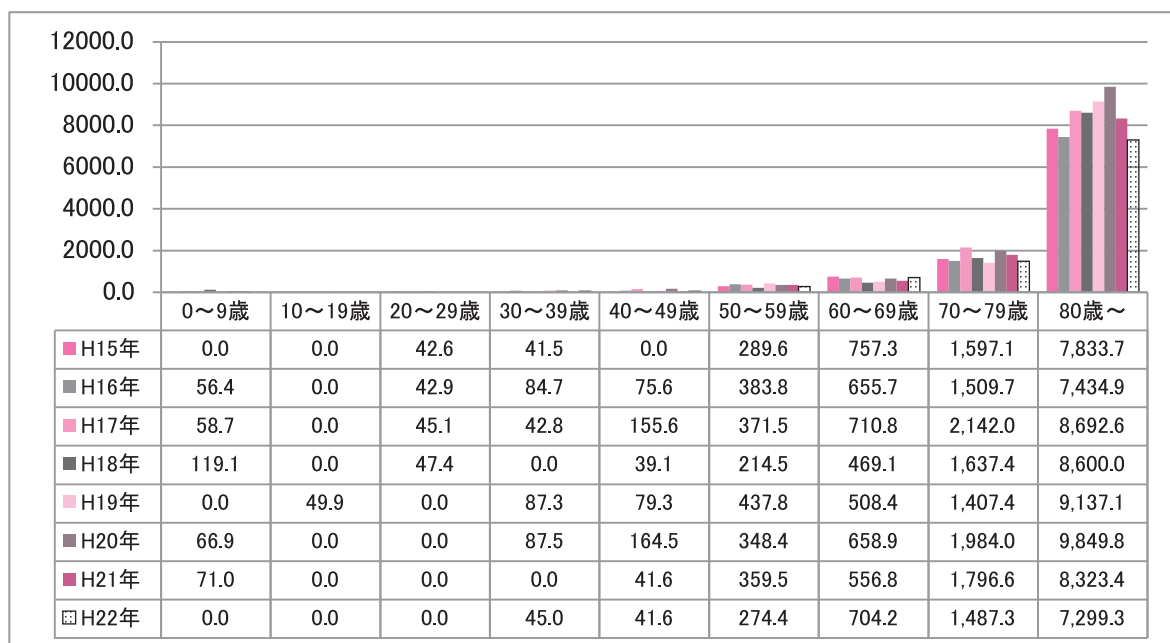
(人口10万対)



資料：青森県保健統計・黒石市人口統計

図11 年齢階級別（10歳階級）死亡率（女性）

(人口10万対)



資料：青森県保健統計・黒石市人口統計

4 健診（検診）等の実施状況

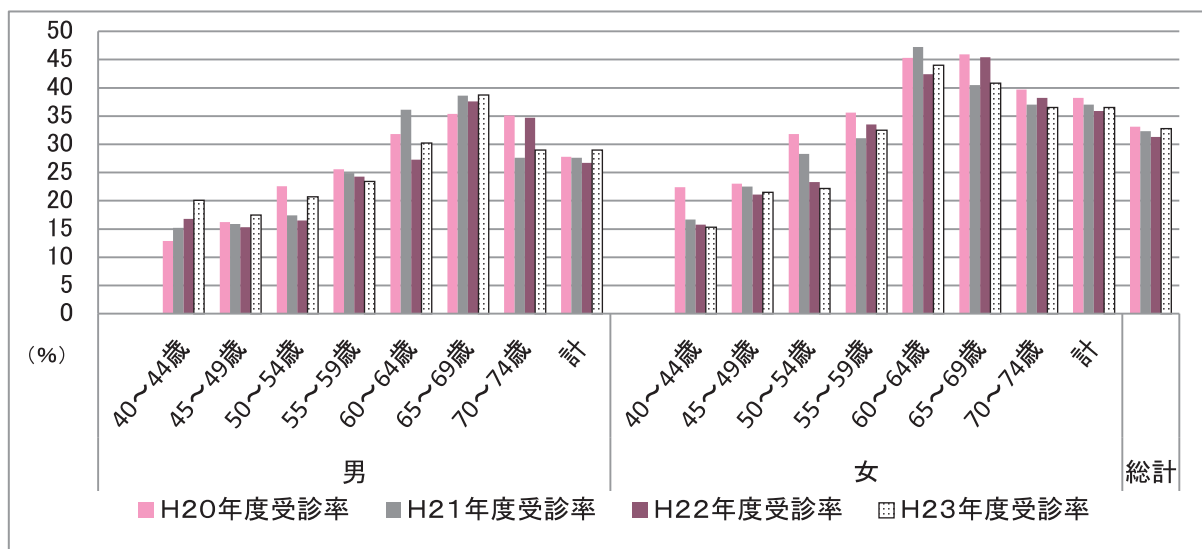
(1) 受診状況

平成20年度から実施された特定健診の受診率は横ばいで推移しており、なかでも40代・50代の受診率が低い状況であり、受診率の向上のためにも、40代・50代への働きかけが課題です。

特定保健指導の実施率も、横ばいで推移しており、こちらも40代・50代の実施率が低く、特定保健指導を受けやすい体制づくりや働きかけが課題です。

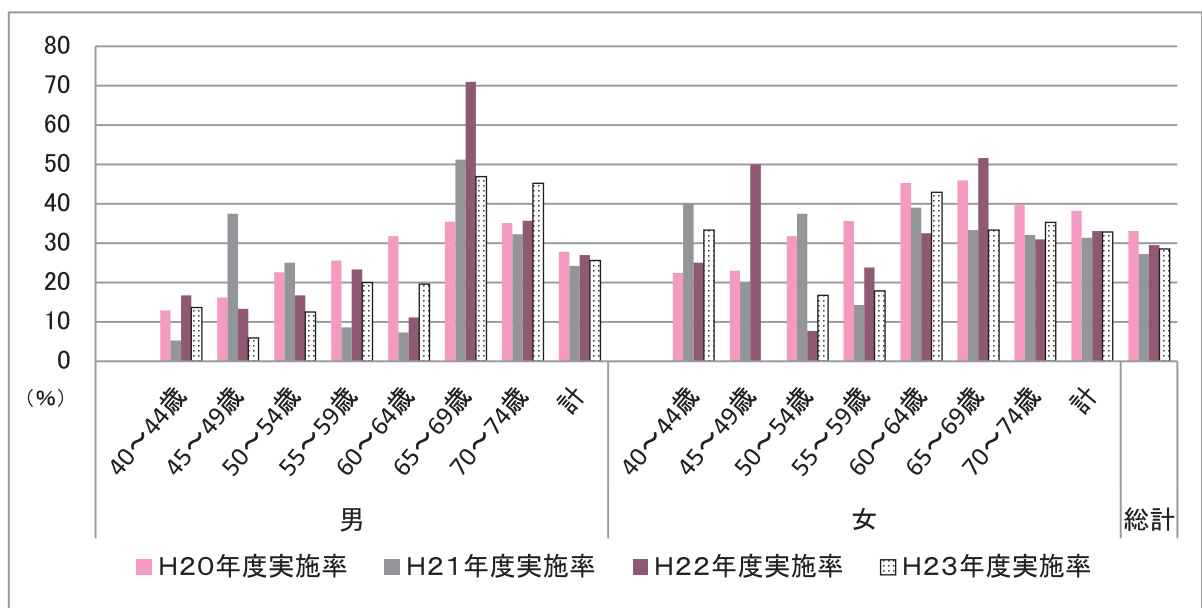
がん検診受診率は、平成13年度から増加傾向にあります。がん精密検査受診率は横ばいの状態です。がんの早期発見・早期治療のために、がん検診受診率・がん精密検査受診率向上が課題となっています。

図12 特定健康診査受診率



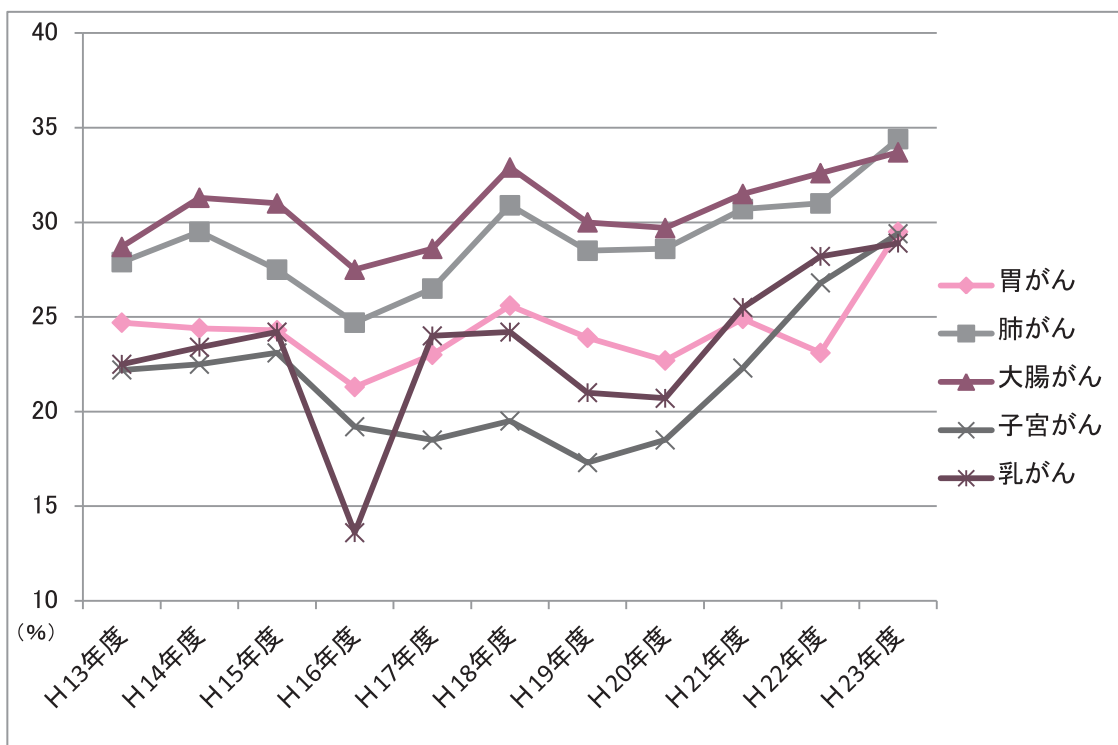
資料：国保くろいし

図13 特定保健指導実施率



資料：国保くろいし

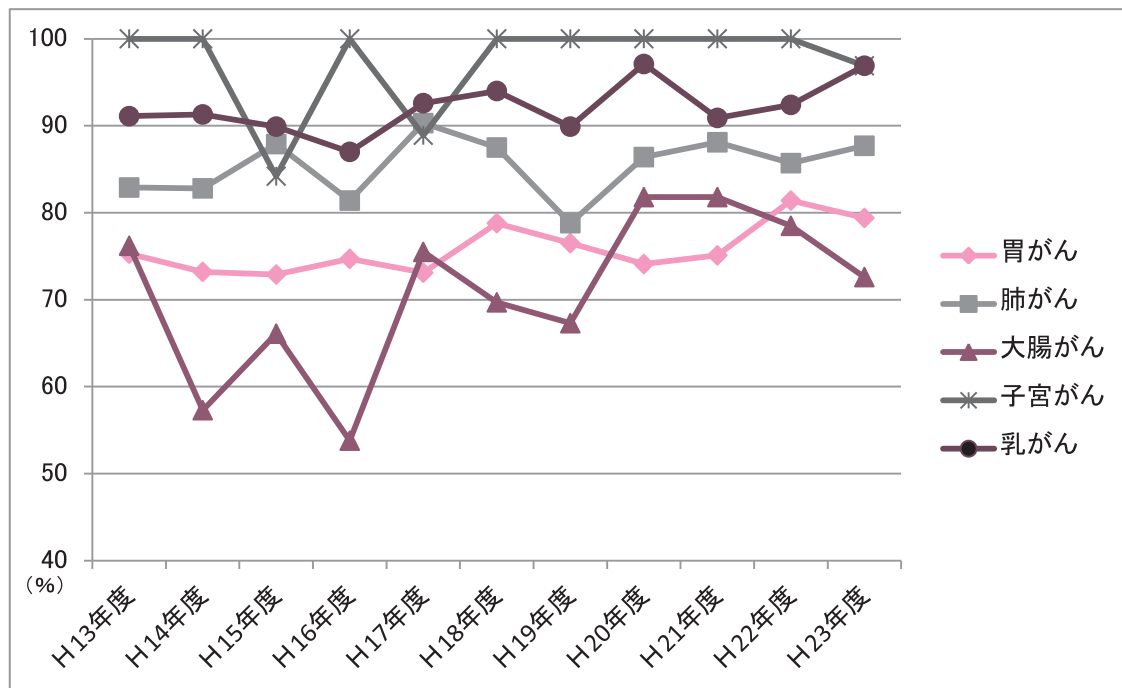
図14 がん検診受診率



資料: 保健活動のまとめ

※乳がん検診については黒石市の集計結果である。地域保健・健康増進事業報告の乳がん検診受診率は平成22年度13.5%・平成23年度13.9%である。

図15 がん精密検査受診率



資料: 保健活動のまとめ

(2) メタボリックシンドロームの該当者等

市の特定健診受診者のうちメタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合は、県より高い割合になっています。平成23年度の市のメタボリックシンドロームの該当者及び予備群者を年齢別にみると、男性はどの年代も30%以上を占めており特に60歳～64歳は41.6%を占めています。

表3 メタボリックシンドロームの該当者及び予備群数

		該当者			予備群者		
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
黒石市	人	421	404	414	315	308	303
	%	(16.2)	(16.3)	(16.0)	(12.2)	(12.4)	(11.7)
青森県	人	12,107	12,253	13,000	10,297	10,007	10,028
	%	(14.4)	(14.4)	(15.0)	(12.2)	(11.7)	(11.6)

資料：国保連特定健診データ管理システム

図16 平成23年度メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合(%)・男性

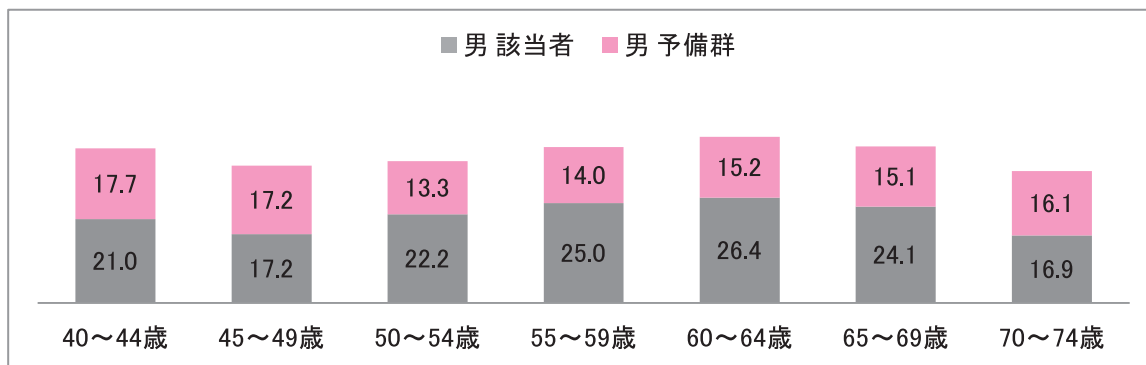
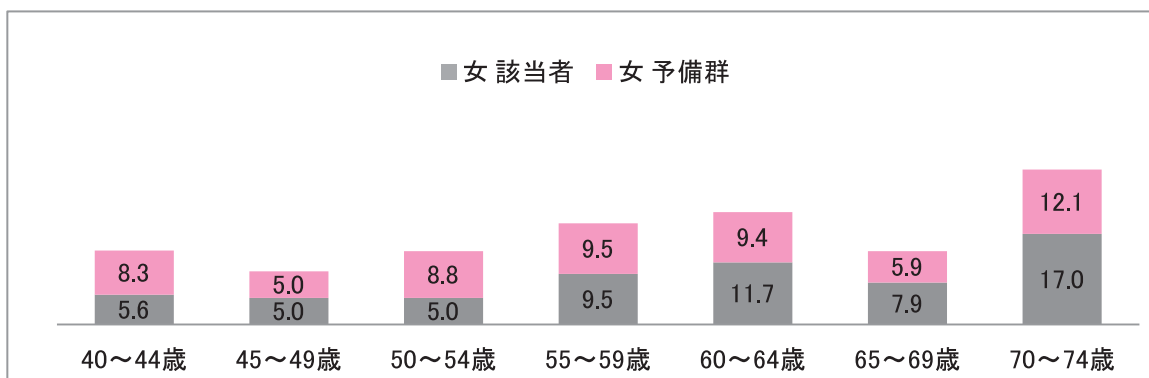


図17 平成23年度メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合(%)・女性



資料：平成23年度青森県総合健診センター集計

(3) 血圧

平成23年度特定健診の血圧値の軽度異常者及び異常者の割合は、男性56.7%、女性は53.3%となっています。年齢別にみると、男性は50歳代から割合が高くなっており、女性は年代が増すごとに高くなっています。また、軽度異常者より異常者の割合が男女とも高くなっているのがわかります。

図18 年齢別血圧値異常者の割合(男性)

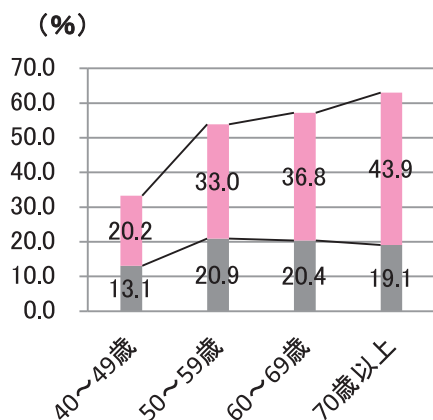
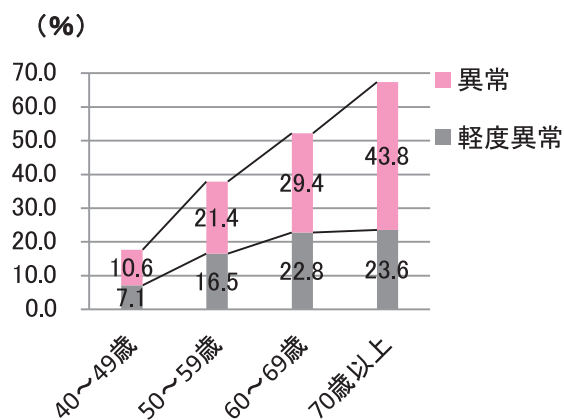


図19 年齢別血圧値異常者の割合(女性)



* 異常:収縮期140mmHg以上または拡張期90mmHg以上

軽度異常:収縮期130～139mmHgまたは拡張期85～89mmHg

資料:H23年度青森県総合健診センター特定健診集計

(4) 認知症

国は、65歳以上人口の10%程度の認知症高齢者が見込まれるとしており、本市では、平成23年度末の65歳以上の人口が9,206人であることから、約920人以上の認知症高齢者がいると推測されます。

また、平成23年度の要介護認定者数は、40～64歳で68人、65歳以上では、1,741人となっています。

(5) 糖尿病

平成20年度からの高血糖値者の推移をみると男性は40～45%で推移しているが、異常者の割合は平成20年度に比較すると平成23年度は9.9%と高くなっています。女性の異常者も割合が平成20年度に比較すると5.6%となっており増加しています。

また、糖尿病における重症化予防のため、糖尿病が強く疑われる人や糖尿病の可能性を否定できない人を早期に治療することが重要ですが、市の健診で糖尿病を強く疑われる方の治療の状況をみると平成23年度は56.1%となっており平成20年度と比べて悪化しています。

図20 高血糖値者の割合(男性)

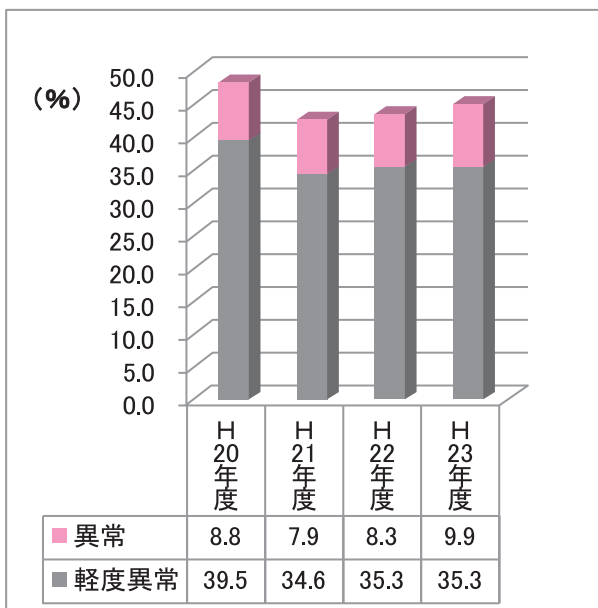
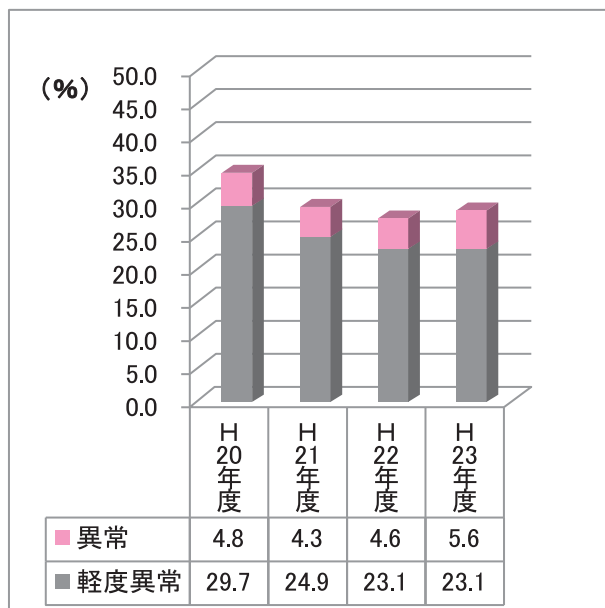
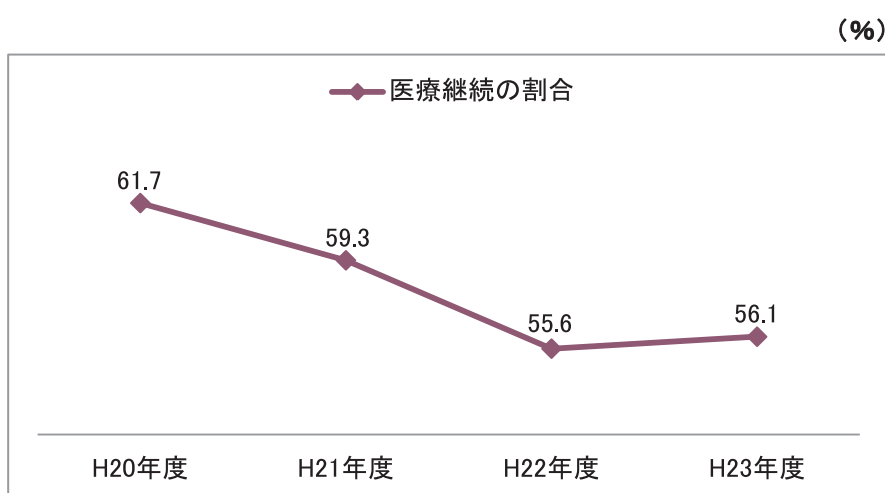


図21 高血糖値者の割合(女性)



資料: 青森県総合健診センター特定健診集計

図22 糖尿病を強く疑われる人(HbA1c 6.1以上)の治療中と回答した方



資料: 青森県総合健診センター特定健診集計

平成24年度の健康意識・生活習慣に関する調査によると、糖尿病で治療したことがある方に、現在の治療状況を尋ねたところ自分の判断で治療をやめた方が男性31%、女性が5%を占めています。

図23 糖尿病の治療状況(男性)

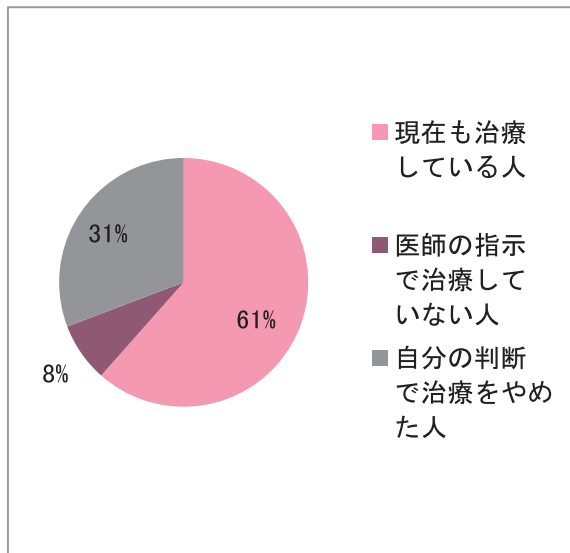
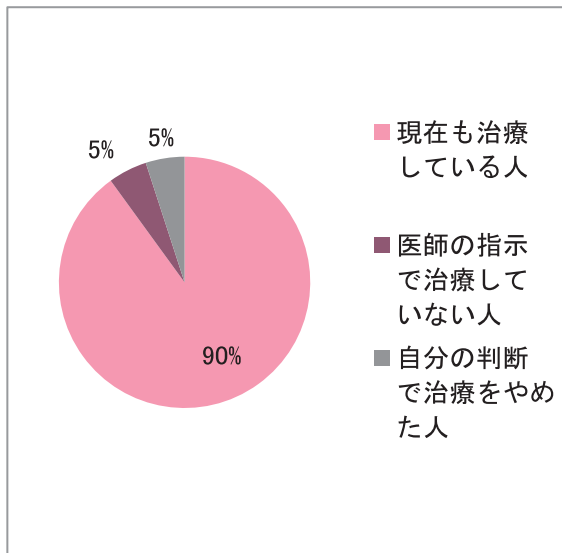


図24 糖尿病の治療状況(女性)



資料:平成24年度健康意識・生活習慣に関する調査

市の人工透析患者数は平成24年度51人となっています。また、51人中新規透析導入者は13人で約25.5%を占めており、新規導入者の中の糖尿病性腎症は5人で約38.5%を占めています。

図25 平成24年度人工透析患者(人)

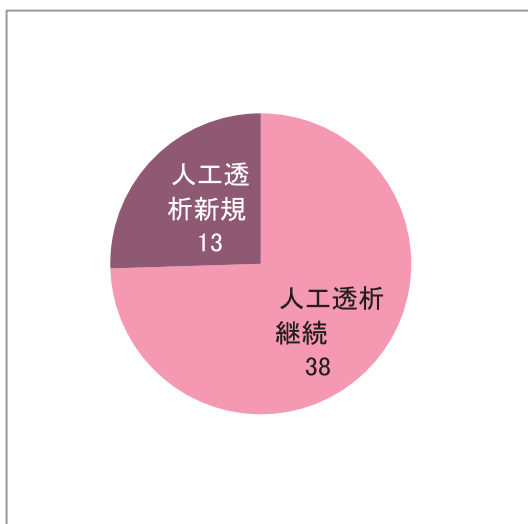
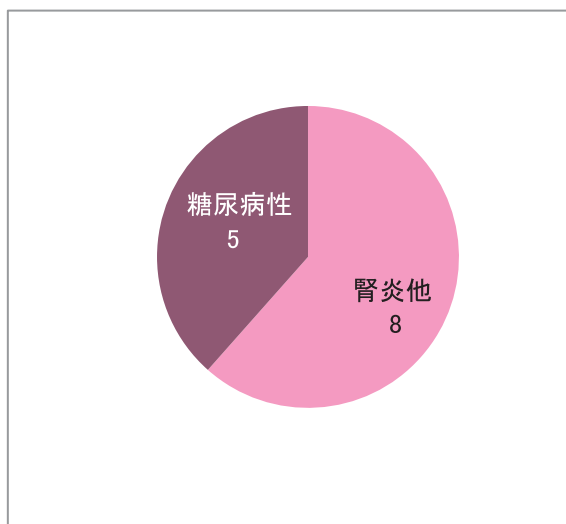


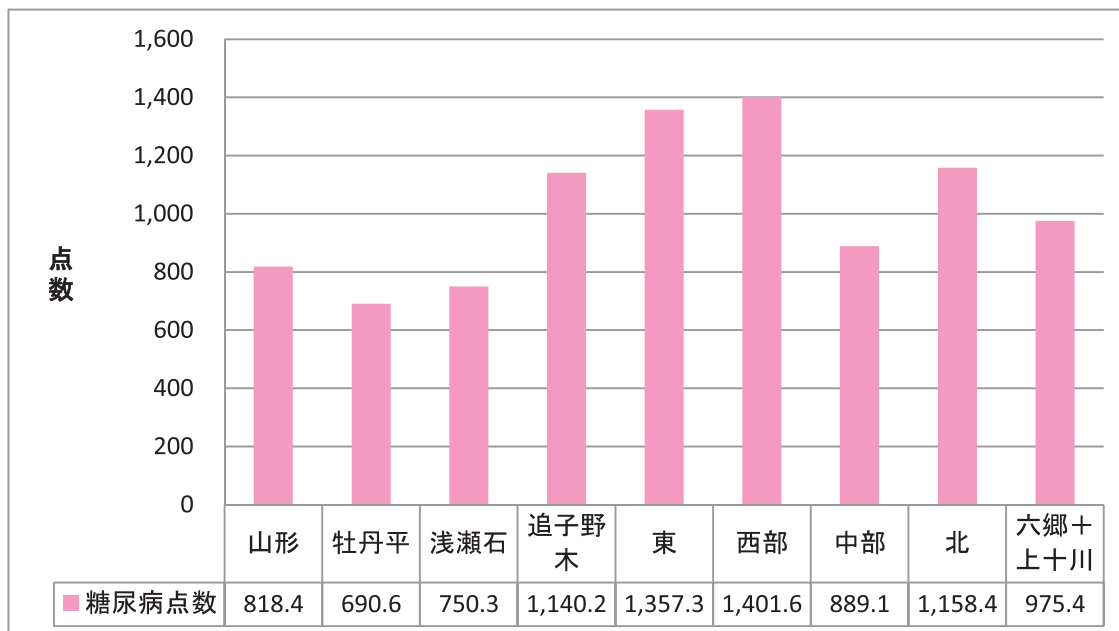
図26 平成24年度人工透析新規導入者の原疾患(人)



資料:黒石市更生医療台帳

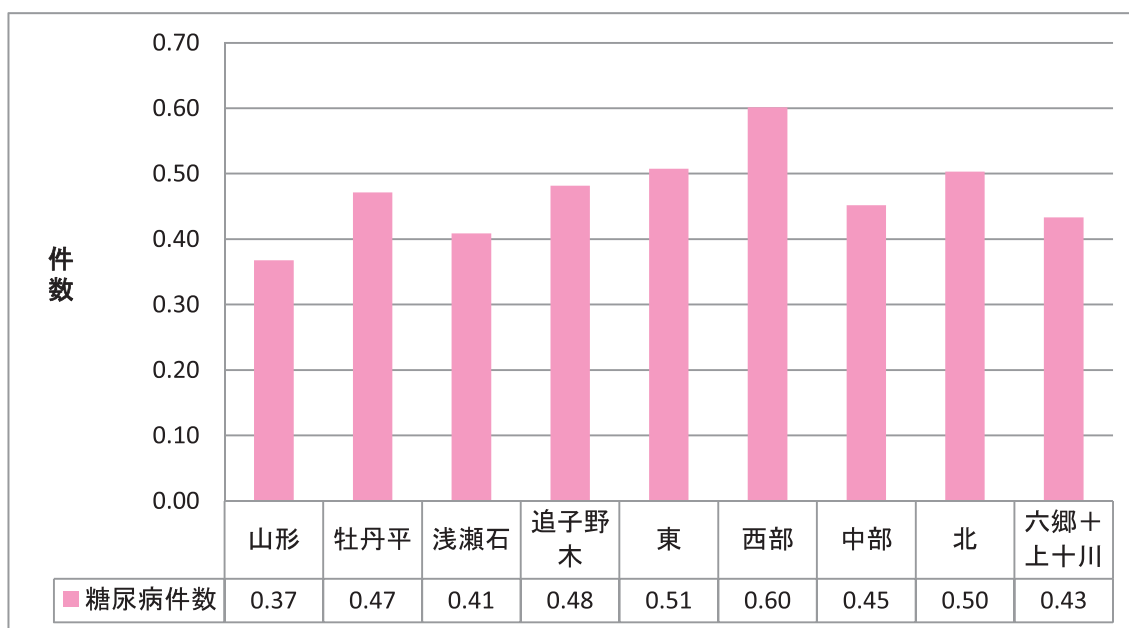
平成23年度の国民健康保険疾病統計データにおいて、西部地区の糖尿病の医療費が9地区の中で最も高額である。また、西部地区の糖尿病で受診している件数が9地区の中で最も多くなっています。

図27 平成23年度 疾病中分類地区別1人当たり点数(点数÷地区別被保険者数)



資料：平成23年度国民健康保険疾病統計データ

図28 平成23年度 疾病中分類地区別1人当たり件数(件数÷地区別被保険者数)



資料：平成23年度国民健康保険疾病統計データ